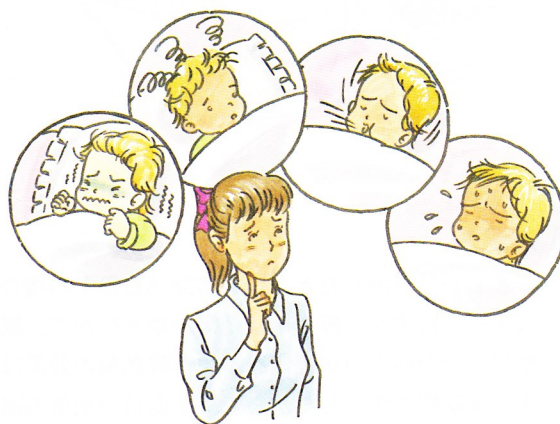


これだけは知っておきたい母親の知識 〈こどもと発熱〉

指導 東京小児科医会会長 埴 賢二

こどもの病気の症状には発熱が最も多く、
しかも保護者にとって最も気になるのも発熱です。

- ① 小児の正常体温は成人よりやや高めです。 ② 母親が高熱時に心配なこと
「脳がやられないか」「肺炎にならないか」



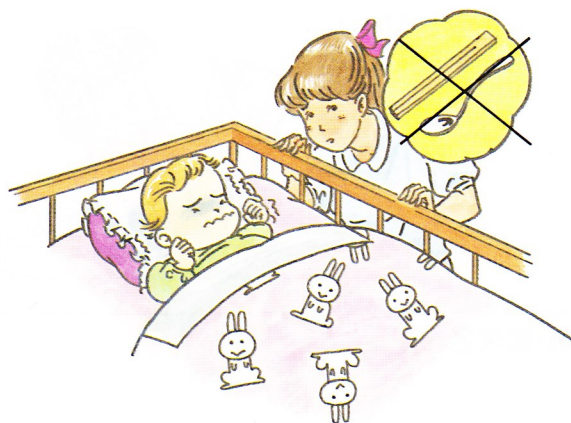
〔高熱が出たからといってすぐ、髄膜炎、
肺炎になることはありません。〕

③ 熱性けいれん

このけいれんは高熱に達する過程でおこりやすく、
5～10分以内で治まり、繰り返さないことが普通
です。あわてて割箸やスプーンなどを口中に入れ
ることは、舌を沈下させ気道をふさぐ危険がある
のでやめましょう。

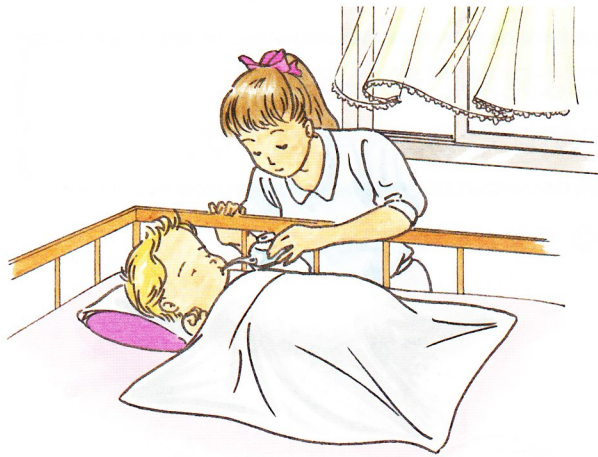
④ 糞便熱

便通がないと、すぐ発熱を「糞便熱」と考え洗腸
する習慣もありますが、便秘によって発熱するこ
とはありません。



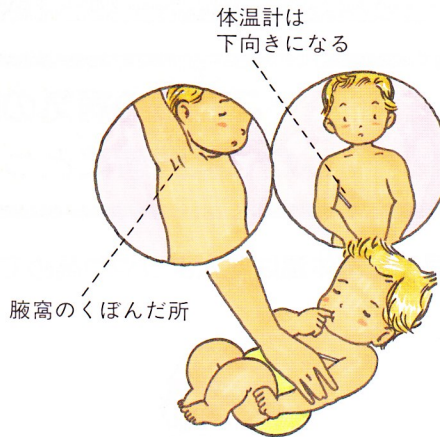
⑥ こどもが発熱した場合の一般的注意

まず、こどもの顔つき、きげん、食欲がよければあわてることはありません。安静にして、風通しをよくし、厚着を避け、水分を十分に与えましょう。



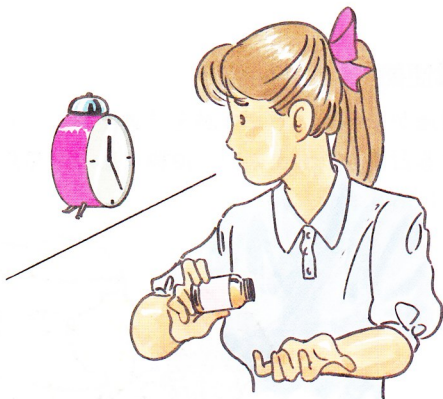
⑥ 正しい検温方法

検温はつぎのように行ないましょう。腋窩前1/3のところに体温計の留点が入るようにして、手で軽くおさえて5~10分測ります。



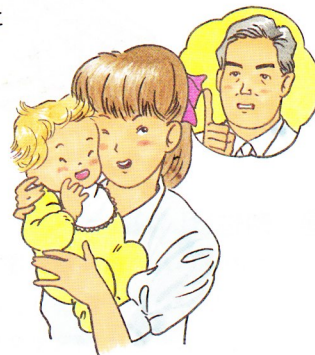
⑦ 解熱剤

こどもが熱を出したとき、通常38.5℃以上の場合に用いられます。解熱剤は効果がゆるやかで、副作用の少ないものが選ばれます。解熱剤の効果は4~5時間です。したがって、2度目の使用の際は4~6時間の間隔をあけましょう。



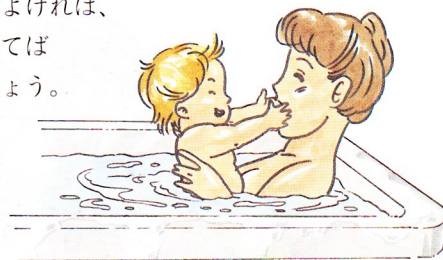
⑧ 解熱、即治癒ではないこと

一般におかあさんは、熱が下がると即治癒と考えがちですが、一時的に解熱したからといって治癒と素人判断しないで、医師の指示に従いましょう。



⑨ 入浴

解熱後の入浴については原因にもよりますが、上気道炎（咽喉頭炎、扁桃炎、感冒など）の場合なら状態がよければ、24時間たてばよいでしょう。



病・医院名

.....
.....
.....
.....